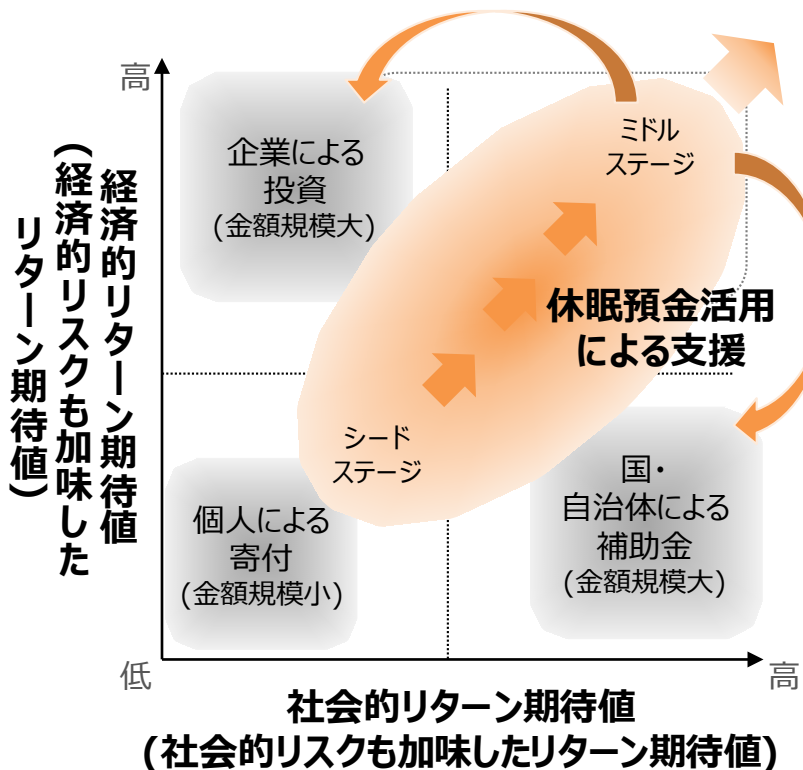


目指すべき成果

- 既存の枠組みでは支援対象になりにくい**が、社会的意義が大きな課題が自立的に解決されていく仕組みを実現**すること

【休眠預金活用による支援対象とする事業イメージ】



- 企業による投資、国や自治体による補助金の対象にはなりにくい**が、リスクも加味した社会的リターンの期待値が高い事業を対象**として支援を実施
 - ここでいう「社会的リスク」には、「革新的手法」や「Social Innovation」の実現による社会への影響も含まれる

検討すべき論点

- 左記成果の実現に向けては、**出資ポートフォリオのイメージの具体化、及び出資ポートフォリオを支える仕組みの設計**が必要

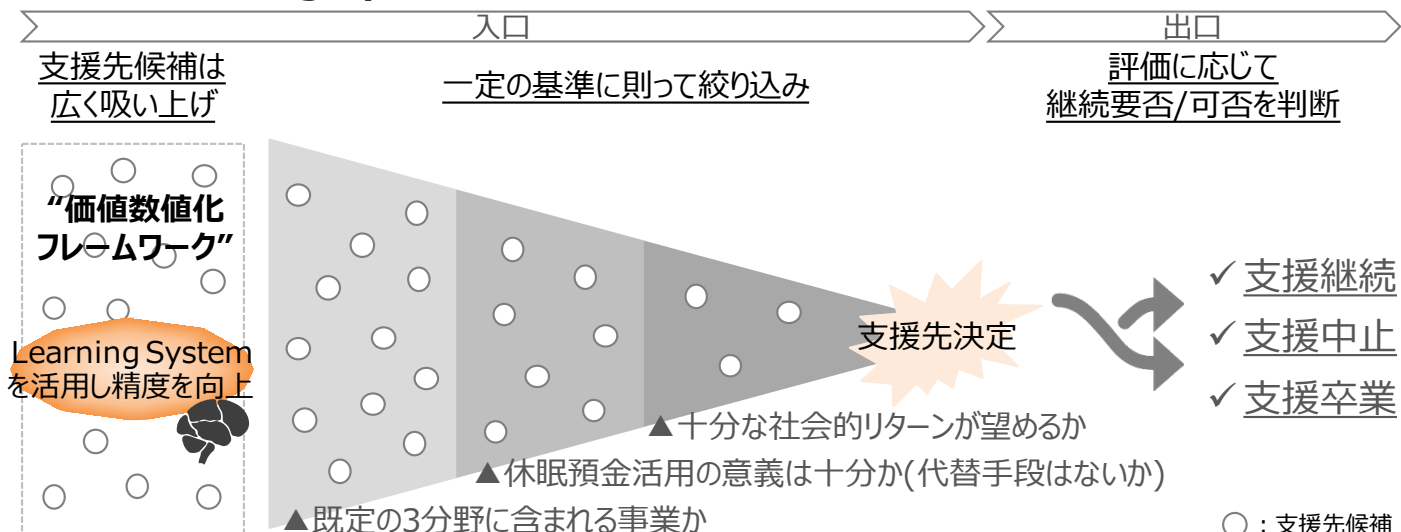
どのようなポートフォリオで出資すべきか？(⇒資金配分の基本原則策定)

→ 休眠預金活用の仕組みが支援対象にする事業にはA,B,Cの3分類がある。これらの事業に対し、どのようなバランスで出資していくかを検討する必要がある

シード ステージ	A 「投資対効果」の 発想を求めない事業	<ul style="list-style-type: none"> 対症療法的な支援ではなく基盤的/インフラ的支援であり、当該事業成立により他領域事業の円滑化/潜在的な課題解決につながる事業(キャパシティビルディングやプラットフォームへの投資等)
ミドル ステージ	B 通常の計算では 経済的リターンが 出ない事業	<ul style="list-style-type: none"> 経済的リスクが高い/短期的には成果が見えにくいが、単純な数字では捉えられない質的変化も含めた価値や長期的な累計価値が高い事業
ミドル ステージ	C 経済的・社会的 リターンが 両立し得る事業	<ul style="list-style-type: none"> 経済的リターン・社会的リターン共に期待でき、今後企業の支援を受けるなどして自立的に運営がなされる事業になりうる事業

上記ポートフォリオを支える仕組みをどう構築するか？

→ SROIに加味すべき要素を判断するフレームワークを設定し、当てはまる事業を広く掘り上げたうえで、**一定の基準に則り支援先を絞り込む**仕組みとしてはどうか。フレームワークには**Learning System**を活用し、運用を通じて精度を高められる仕組みとする



《今後の進め方に対するご提案》

- 本審議会にて、まず社会的リターン換算の考え方を整理したうえで、NPOや自治体における過去の実施事業を参考にリターン換算のシミュレーションを実施してはどうか
- 2019年度秋からの実運用スタートに向けては、事前にパイロット事業を行うことも視野に入れて検討を進めるべきではないか